



アートと医療の出会い ホスピタル・アートの視点から

2005年9月26日(月) 開場18:00 開演18:30
京都造形芸術大学 春秋座

京都市左京区北白川瓜生山2-116
<http://www.k-pac.org/theatre/index.html>

ホスピタル・アートは、病院に導入されることによって病気の治癒に役立つだけでなく、アートの新しいジャンルとしても注目を浴びている。

なぜ、病院でアートをするのだろうか？ 病院にとってアートは死という現実から目をそむけさせるための飾り物ではなかったのか。そうではない、アートがあることによって、病院での生がいつそう輝くのである。

総合司会 桑山 亜也
[アーツプロジェクト]

司会 中川 真
[大阪市立大学大学院教授]

基調講演 パメラ・バーンズ
[英国 Action for sick children 代表]

パネリスト 小林 昌廣
[芸術生理学 芸術批評 京都造形芸術大学 教授]

山口 悦子
[医学博士 人間科学博士 大阪市立大学大学院医学
研究科発達小児医学・病院講師]

森口 ゆたか
[造形作家 NPO 法人アーツプロジェクト代表]

塚原 成幸
[道化師 日本クリニックラウン協会事務局長
兼アーティスティックディレクター]



HOSPITAL ART

16:30

<関連イベント>
映画:[心の杖として鏡として] 上映会

..... 102教室

17:40
18:30

<シンポジウム>
『アートと医療の出会い
ホスピタル・アートの視点から』

..... 春秋座

21:00

>> 本シンポジウムは入場無料となっております。



主催: NPO法人 アーツプロジェクト
協催: 京都造形芸術大学
京都文藝復興倶楽部

映像協力: エイブル・アート・ジャパン
(財) たんぽほの家 日本クリニックラウン協会

HOSPITAL ART



「シンポジウムの趣旨」

本シンポジウムでは、病院におけるアートを論じながら、社会におけるアートの意味へと射程は広がっていくだろう。まず初めに基調講演として、英国のホスピタル・プレイ・スペシャリストの主導的立場を担ってきたパメラ・バーンズ氏に、氏のこれまでの活動のエッセンスを話していただく。アートの隣接領域である遊技の効用に着目して、氏は小児医療に適用して成果をあげてきた。その効果は高く評価され、現在ではプレイ・スペシャリストは英国において国家資格となり、8人の小児患者あたり1人のプレイ・スペシャリストが配属されるまでに至っている。今回のバーンズ氏の実践的報告は我々を勇気づけるものであろう。後半には、4人のパネリストを招聘して、日本におけるホスピタル・アートの現状について語り合ってもらおう。これまであまり知られていなかったホスピタル・アートが、日本で初めてまとまった形で紹介される意義は極めて深い。セラピーとは異なる足場が示されるだろう。パネリストは現場に関わっている点で共通性があり、全ての発表が体験に裏打ちされた確かな言葉として、来場者の胸に届くことが期待される。新たな臨床的知として、アート実践、芸術学、医学、哲学、看護学、社会学など多ジャンルに刺激を与えることは間違いない。司会は、障害のある人とアートづくりを行っている大阪市立大学大学院教授の中川真氏。

総合司会 **桑山 亜也**
[アーツプロジェクト]

司会 **中川 真**
[大阪市立大学大学院教授]

基調講演 **パメラ・バーンズ**
[英国 Action for sick children 代表]

パネリスト **小林 昌廣** [芸術生理学 芸術批評 京都造形芸術大学 教授]

身体や生命に関する哲学的考察、芸術と医療の関係の構築、ダンスや日本舞踊の批評などを総合した「芸術生理学」を提唱している。ホスピタル・アートという正に医療と芸術の関係性、構築に関する第一線の研究者としての発言が期待される。

山口 悦子 [医学博士 人間科学博士 大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学・病院講師]

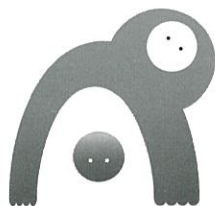
小児科の医師、教育・研究者としての仕事の傍ら、大阪市立大学医学部付属病院内アート活動グループ「ホスパ」の中心的メンバーの一人として、若いアーティストらとの連携のもとに様々なプロジェクトを運営してきた。病院とアートが出会うことで、何が変わったのか、どのような可能性を見いだしているのか、現場からの生の報告が聞けそうである。

森口 ゆたか [造形作家 NPO 法人アーツプロジェクト代表]

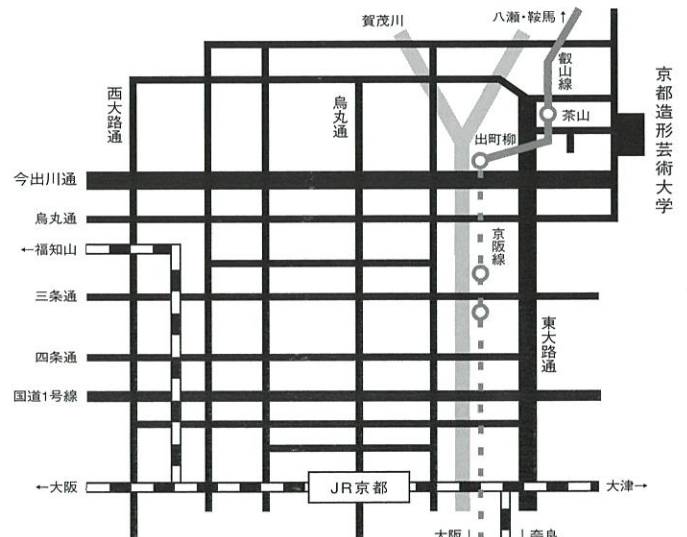
造形作家として画廊や美術館を発表の場として活動を続けていたが、アートがより直接社会と繋がる方法を模索していたところ、98～99年のイギリス滞在中にホスピタル・アートと出会い、芸術療法とは異なる医療と芸術の関わりに可能性を見だし、帰国後アーツプロジェクトという団体を立ち上げ、活動を続けている。

塚原 成幸 [道化師 日本クラウン協会事務局長 兼アーティストディレクター]

道化師として全国各地で公演を行う。また笑いやユーモアが人間関係の円滑化や、精神的ダメージの軽減に役立つという視点から95年に発災した阪神・淡路大震災の復興支援活動に関わる。以後、道化的発想と行動が現代社会における「豊かなコミュニケーションの構築」につながるの経験を活かして、各種の講演会やワークショップを手がけている。この春からクラウン（臨床道化師）の養成も行っている。



<http://www.arts-project.com/>
お問い合わせ：NPO 法人 アーツプロジェクト
TEL 078.845.9340



会場 [京都造形芸術大学]
京都市左京区北白川瓜生山2-116
<http://www.k-pac.org/theatre/index.html>

■当施設に駐車場はございません。あしからずご了承下さい。
■京阪線：叡山電鉄<茶山駅>より徒歩15分